

#### 4. 雲仙普賢岳の火山砂防事業に対する住民の評価

雲仙復興事務所は事業展開に活かすことを目的として平成5年度より開始した直轄火山砂防事業について、地域住民に対してアンケート調査を実施した。アンケートの調査対象・回収は、水無川、中尾川および湯江川の土石流被害範囲の住民とした。アンケート用紙の配布は、平成22年12月から平成23年1月にかけて実施された。配布部数は、6,060部、回収部数は1,159部で、回収率は19.1%であった。アンケート調査の結果は、雲仙復興事務所が設置した「明日の土砂災害対策を考える会」で報告され、雲仙復興事務所のホームページのWeb図書館に掲載されている。アンケート調査は多岐にわたっているが、ここでは砂防指定地利活用に関する項目を述べる<sup>9)</sup>。

##### (1) 現在までに行ってきた砂防事業に関する評価

雲仙復興事務所が実施してきた「住民と一体となった各種事業」は、すべての事業において過半数を超える高い評価を得た結果となった。利活用に関係する「植栽に対する取組み」、「旧深江町立大野木場小学校被災校舎や大野木場砂防みらい館の保存と建設」、「工事に支障となる樹木の移植」については、80%を超える高い評価となった。

##### (2) 地域復興への支援に関する評価

水無川流域の住民の約40%は「われん川を利用したことがある」（図-1）ものの、「除草活動に参加した」ことがある住民は10%程度で、若い人ほど参加率が低い結果となった。

また、中尾川流域では住民の33%が「遊歩道やゲートボール場等の多目的広場を利用したことがある」と答えた（図-2）。中尾川流域の住民の67%が「今後も利活用計画に基づいて整備が行われるべき」と思うと回答した（図-3）。具体的な整備の内容については回答者の43%が「導流工全区間に遊歩道・散策路の整備」、37%が「花壇の設置等、四季の花を楽しめるような整備」をそれぞれ望んでいる結果となった。

##### (3) 緑の復元に関する評価

住民のほとんどが、「失われた緑の復元」に関

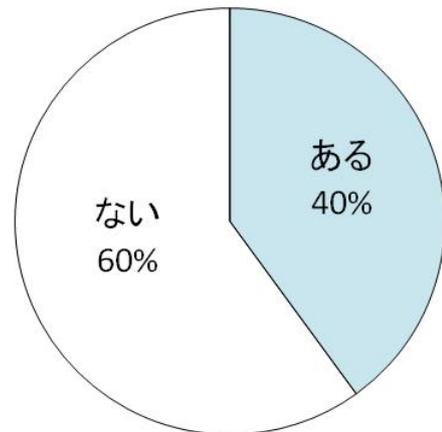


図-1 われん川の利用実績 (N=657、水無川流域のみ)

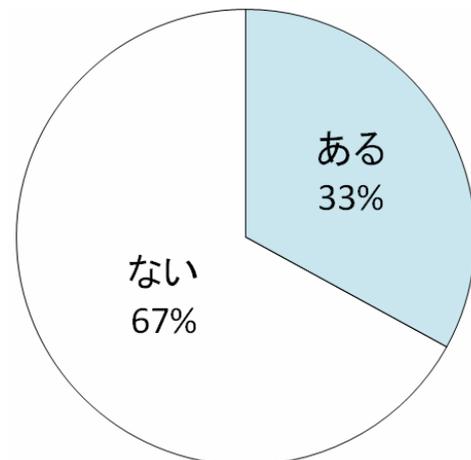


図-2 中尾川の多目的広場の利用実績 (N=295、中尾川流域のみ)

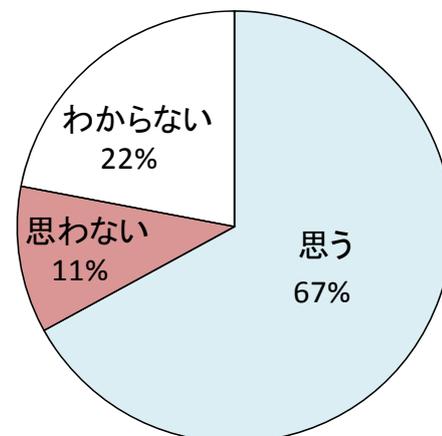


図-3 中尾川の利活用計画に基づく利活用のための整備の継続 (N=293、中尾川流域のみ)

心を持っており、「除草等の維持管理活動」については、全地域の回答者の58%が町内会等が積極的に関わっていくべきと考えている。また、84%が「緑の復元の取組み」に対して評価している(図-4)。除草等の維持管理活動に関しては58%が町内会等でじっさい積極的に関わって行くべきと考えている。実際に維持管理活動に参加した人ではその割合が75%と高くなっている。「千本木地区への立入り」については68%が、「危険な箇所等の表示をしたうえで立入りできるような整備」を望んでいることが分かった。

#### (4) 災害遺構の保存に関する評価

後世に噴火災害を伝承するための施設として位置づけられている旧大野木場小学校被災校舎と大野木場砂防みらい館については全地域の81%が「必要」と考えており(図-5)、今後さらに多くの人々にこれらの施設を利用してもらうため、「もっとアピールすべき」という回答が69%を占めた。平成3年6月3日に発生した火砕流によって43人が被災した農業研修所跡地や定点付近については、43%が「警戒避難体制を整備して立入り可能にして欲しい」と考えている結果となった。また、定点付近の災害遺構の保存や清水川等の遺構の保存については、55%が「ぜひ整備して欲しい」と考えている結果となった。

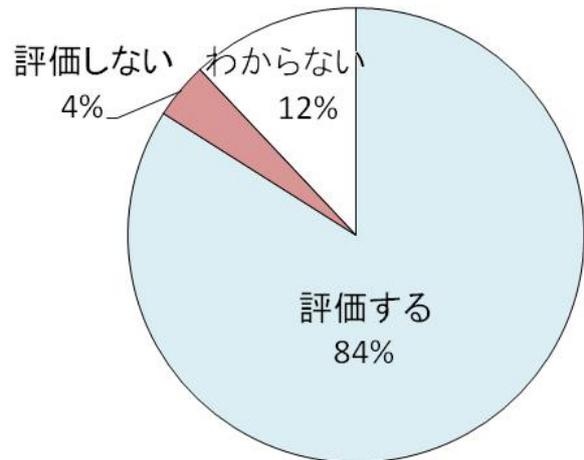


図-4 緑の復元の取組みの評価 (N=999、全体)

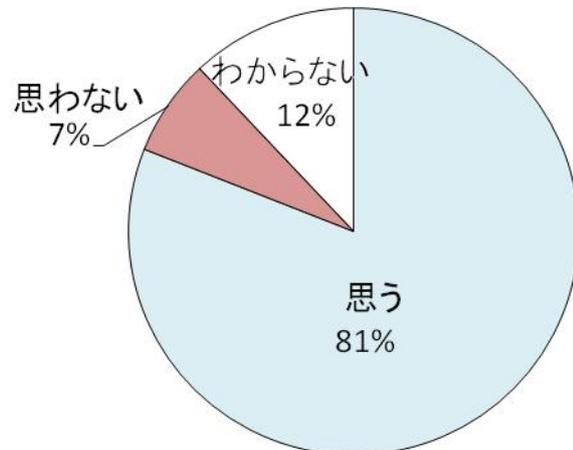


図-5 災害遺構や大野木場砂防みらい館の必要性 (N=1,009、全体)